

—序 文—

長崎大学公開講座叢書は、今回で第5集を数えることとなりました。今回のタイトルは、「人にやさしい“まちづくり”—長崎から—」であります。

本書は2部からなります。I部は、「まちづくりと私たちの暮らし」と題して、環境、防災、まちづくりの3テーマを含んでいます。記憶に新しい長崎大水害や台風による大被害の教訓を生かして、いろいろな角度からの視点でもって、検討をしています。II部では、「高齢者と障害者（児）の住みやすい社会をめざして」と題して、同様に広い視点から、あるべきあたたかい社会の姿を分析しています。

環境と社会のあり方は、精神的にも物質的にも、我々の暮らしにとって最も基本的なものです。1992年にリオ・デ・ジャネイロで行われた国際地球開発会議（地球サミット）により、「環境」への関心がこれまで以上に高まってきました。私も、先日「戦争と平和展」に出席し、見学の機会を得たとき、深い感銘を受けた次の言葉に出会いました。

「地球を大切にしないで。それは、親からもらったものではなく、子供達から借りているものだから」

ケニアの諺でした。

人間は、地球が、そしてその資源が限りあることに気づくのが遅すぎたと思います。でも、まだ間に合うでしょう。いや、間に合わせなければならないのです。一人一人の意識の向上が、その鍵です。

また、人間が人間をいたわる思いやりの心は、人間として忘れてはならないものです。人間の身体はおかしなものですが、人間の心はもっと奇妙なものです。しかし、我々は、理性と感性をもって、住みやすい社会を築くことができます。老いは、人にとって避けることができないものですし、また、先天的にせよ後天的にせよ、身体的な障害に苦しみながら闘う人たちにはその氣力を讃え、励まし、助けてあげたいものです。

花時計咲き信じるに足る未来

長崎からの今回の叢書5が、前4書と同じく、現代社会の創造への問題提起に一助となれば、まことに幸いに存じます。

終わりにあたり、本書の企画にあられた大学教育開放運営委員会と、執筆下さった方々へ心からの敬意を表すとともに、刊行に御尽力をいただいた大蔵省印刷局へ深く感謝いたします。

平成5年2月

長崎大学長 横山哲夫